

2026年12月期 第2四半期(中間期) 決算説明資料



01 | 2026年12月期 第2四半期(中間期) 決算説明資料

- 決算の概要（PL、BS、CF等）
- 2026年12月期 第2四半期(中間期)のトピックス
- 2026年12月期の経営戦略
- 2026年12月期の業績予想

02 | Appendix

I. 決算の概要

連結損益

(単位：百万円)

科目	2025年期中間期		2026年期中間期		増減		2026年2月10日 公表した 業績予想数値
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率	
売上高	21,282	100.0%	24,103	100.0%	2,821	13.3%	22,500
売上原価	16,951	79.7%	19,479	80.8%	2,527	14.9%	—
販売費・一般管理費	3,210	15.1%	3,521	14.6%	310	9.7%	—
営業利益	1,119	5.3%	1,102	4.6%	△16	△1.5%	900
営業外収支	△230	△1.1%	1	0.0%	232	59.2%	—
経常利益	888	4.2%	1,104	4.6%	215	24.2%	900
親会社株主に帰属する 中間純利益	595	2.8%	653	2.7%	58	9.9%	600

<売上高>

日本およびアジア(日本除く)における産業機器市場の需要が堅調に推移しました。あわせて、円安による為替換算上の理由、ならびに原材料価格の上昇に対する一部の製品価格の改定等により売上高が増加しました。その結果、当社売上高は24,103百万円(前年同期比13.3%増)となり前年を上回りました。

<利益>

利益面では、北米市場におけるペソ高による為替変動に加え、原材料価格の上昇や品種構成の悪化等が利益を圧迫しましたが、売上高の増加による増販益に加え、グローバルでの原価低減活動による利益の改善に取り組んだ結果、営業利益は1,102百万円(前年同期比1.5%減)となり、前年とほぼ同額になりました。一方、経常利益は1,104百万円(同24.2%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は653百万円(同9.9%増)となり、為替が前年同期より円安方向に動いたことにより前年を上回りました。

3

セグメント情報

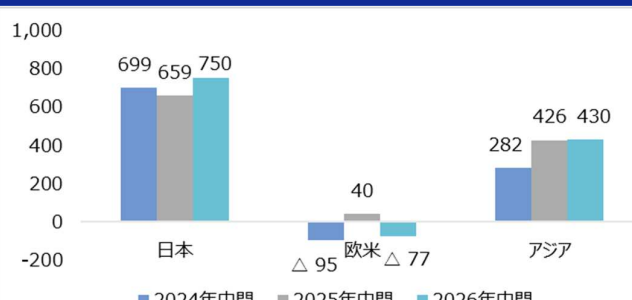
売上高

(単位：百万円)



セグメント利益

(単位：百万円)



<日 本>

産業機器市場において、ワイヤーハーネス・電線を中心に需要が堅調に推移しました。あわせて、原材料価格の上昇に対する一部の製品価格の改定等により売上高が増加しました。その結果、日本での売上高は12,799百万円(前年同期比10.6%増)となりました。

利益面では、原材料価格の上昇や品種構成の悪化等が利益を圧迫しましたが、売上高の増加による増販益等により、営業利益は750百万円(前年同期比13.8%増)となりました。

<欧 米>

北米における自動車関連市場の需要が堅調に推移しました。あわせて、円安による為替換算上の理由により売上高が増加しました。その結果、欧米での売上高は6,566百万円(前年同期比11.8%増)となりました。

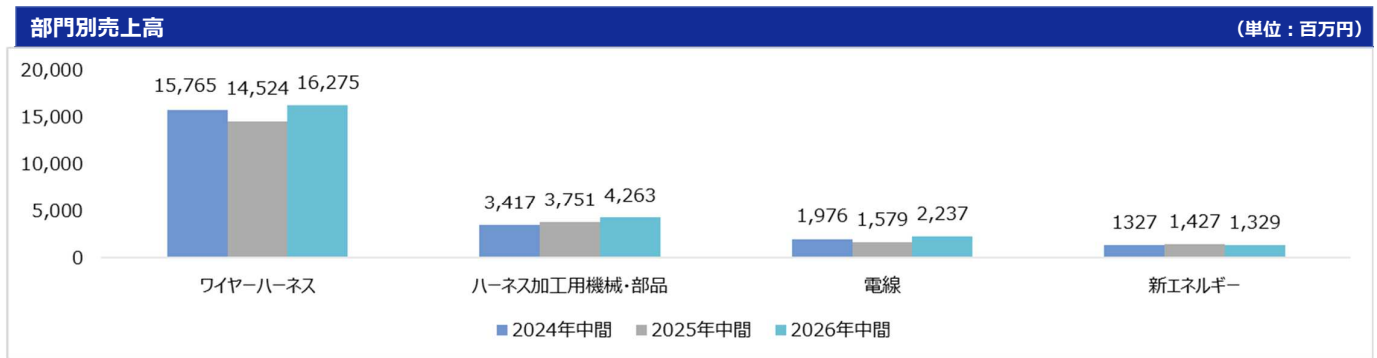
利益面では、売上高の増加による増販益に加え、メキシコ工場での生産性の改善に取り組むも、北米市場におけるペソ高による為替変動や原材料価格の上昇等が利益を圧迫しました。その結果、営業損失は77百万円(前年同期は40百万円の営業利益)となりました。

<アジア>

中国市場の需要は引き続き低調に推移しているものの、産業機器市場における需要が堅調に推移しました。あわせて、円安による為替換算上の理由により売上高が増加しました。その結果、アジアでの売上高は4,737百万円(前年同期比23.6%増)となりました。

利益面では、売上高は増加するも、コスト競争の激化などの影響により、営業利益は前年並みの430百万円(前年同期比1.0%増)となりました。

4



<ワイヤーハーネス部門>

北米における自動車関連市場、および日本・アジア(日本除く)における産業機器市場の需要が堅調に推移したことにより、売上高16,275百万円(前年同期比1,749百万円、12.1%増)となりました。

<ハーネス加工用機械・部品部門>

環境関連および自動車関連部品の販売増加により、売上高4,262百万円(前年同期比511百万円 13.6%増)となりました。

<電線部門>

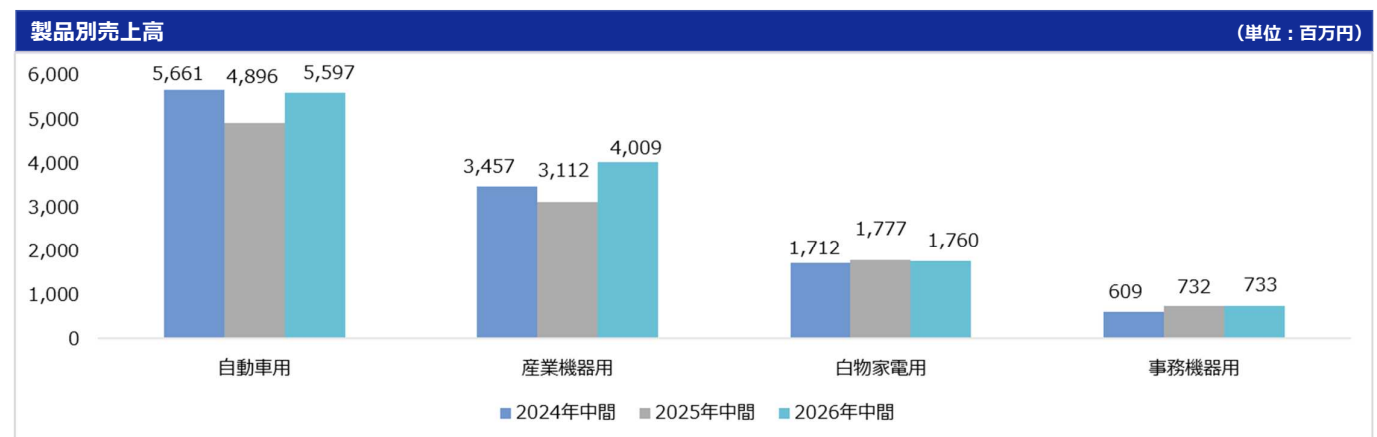
日本における産業機器市場の需要が堅調に推移したことや、原材料価格の上昇に対する一部の製品価格の改定等により、売上高2,237百万円(前年同期比658百万円、41.7%増)となりました。

<新エネルギー部門>

再生可能エネルギー市場の拡大を背景に、系統用蓄電所向け監視制御システム等の需要が増加しましたが、従来型製品の需要が低迷した結果、売上高1,329百万円(前年同期比△98百万円、6.9%減)となりました。

※売上合計のうち環境関連売上： 2,230百万円

ワイヤーハーネスの主な製品別売上高



<自動車用分野>

北米における自動車関連市場の需要が堅調に推移したことにより、売上高5,597百万円(前年同期比700百万円、14.3%増)となりました。

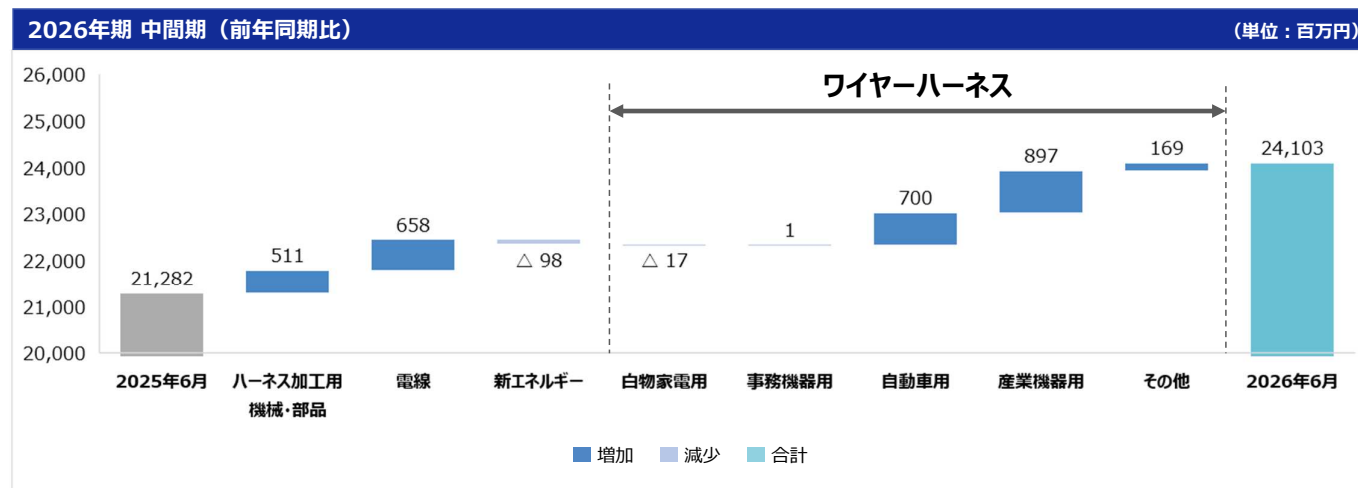
<産業機器分野>

日本およびアジア(日本除く)における産業機器市場の需要が堅調に推移したことにより、売上高4,009百万円(前年同期比897百万円、28.8%増)となりました。

<白物家電用分野>

一部の顧客における需要が減少したものの、空調機器用ハーネスの需要が増加した結果、売上高1,760百万円(前年同期比△17百万円、1.0%減)とほぼ前年並みとなりました。

売上高の増減



【主な増減要因】

<電線部門>

日本における産業機器市場の需要が堅調に推移したことや、原材料価格の上昇に対する一部の製品価格の改定等により、売上高2,237百万円（前年同期比658 百万円、41.7%増）となりました。

<自動車用分野>

北米における自動車関連市場の需要が堅調に推移したことにより、売上高5,597百万円（前年同期比700百万円、14.3%増）となりました。

<産業機器分野>

日本およびアジア(日本除く)における産業機器市場の需要が堅調に推移したことにより、売上高4,009百万円（前年同期比897百万円、28.8%増）となりました。

7

固定資産投資

○有形固定資産取得額

345百万円

【主な投資内訳】

《主な工場関連投資》

- 日本のワイヤーハーネス工場への投資 83百万円
- 日本のハーネス加工用機械・部品の製造設備 79百万円
- 日本の電線工場の製造設備 51百万円
- 東南アジア地域のハーネス加工用機械・部品の製造設備 46百万円

8

連結財政状態（主要な科目）

(単位：百万円)

科目	2025年12月末		2026年6月末		増減
	金額	構成比	金額	構成比	
流動資産	29,242	69.5%	31,095	68.7%	1,853
（現金及び預金）	7,228	17.2%	10,102	22.3%	2,874
（受取手形、売掛金及び契約資産）	10,971	26.1%	9,294	20.5%	△1,677
（棚卸資産）	9,685	23.0%	10,744	23.7%	1,059
固定資産	12,809	30.5%	14,160	31.3%	1,350
（有形固定資産）	8,914	21.2%	8,924	19.7%	10
資産合計	42,051	100.0%	45,256	100.0%	3,204
負債	13,642	32.4%	14,931	33.0%	1,289
（支払手形及び買掛金）	6,842	16.3%	7,445	16.5%	603
（有利子負債）	2,552	6.1%	2,274	5.0%	△277
純資産	28,409	67.6%	30,324	67.0%	1,915
負債・純資産合計	42,051	100.0%	45,256	100.0%	3,204
自己資本	27,755	66.0%	29,672	65.6%	1,916

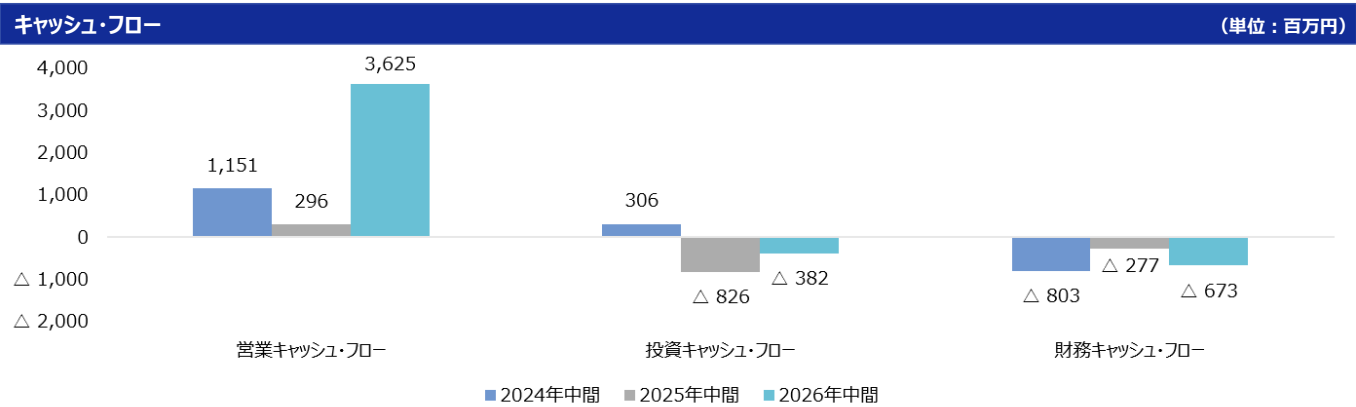
＜総資産＞

資産合計は、45,256百万円（前期末比3,204百万円増）となりました。
主に、現金及び預金2,874百万円、棚卸資産1,059百万円及び投資その他の資産が1,280百万円増加いたしました。

＜自己資本比率＞

自己資本は29,672百万円へ増加となりましたが、自己資本比率は66.0%から65.6%（前期末比0.4%減）となりました。

キャッシュ・フローの状況



＜営業活動によるキャッシュ・フロー＞

営業活動によるキャッシュ・フローは、3,625百万円の収入（前年同期は296百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益1,067百万円、減価償却費596百万円、売上債権の減少1,849百万円及び仕入債務の増加518百万円等による資金の増加要因が、棚卸資産の増加852百万円等による資金の減少要因を上回ったことによるものであります。

＜投資活動によるキャッシュ・フロー＞

投資活動によるキャッシュ・フローは、382百万円の支出(前年同期は826百万円の支出)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出345百万円によるものであります。

＜財務活動によるキャッシュ・フロー＞

財務活動によるキャッシュ・フローは、673百万円の支出(前年同期は277百万円の支出)となりました。これは主に、短期借入金の純増減額159百万円、長期借入金の返済による支出142百万円及び配当金の支払額255百万円等によるものであります。

Ⅱ. 2026年第2四半期(中間期)のトピックス

1. 成長戦略

- ・ AI需要が拡大、半導体設備関連の産業機器市場にてワイヤーハーネス・電線の需要が堅調
- ・ 再生可能エネルギー市場の拡大を背景に、系統用蓄電所向け監視制御システムの需要増
- ・ 政府GX推進戦略による脱炭素先行地域にCN-Solutionシステムの納入継続
- ・ データセンター向け製品の提案活動を推進中、工期の影響等で拡大は来期以降の見込み

2. 生産戦略

- ・ 更なるワイヤーハーネスの需要拡大に、国内生産拠点を強化
- ・ 生産性向上と品質力向上の為に自動機、AI画像認識検査装置を導入拡大
- ・ GHG削減活動として、三重工場におけるCO2フリー電力の使用を開始

3. 経営基盤強化

- ・ 業務プロセス改革／IT基盤構築プロジェクトを推進
- ・ 新中期経営計画の検討と連動した人事制度改革を推進

4. 資本コストを意識した経営

- ・ 中期計画の最終年度目標「配当性向30%以上」を継続
- ・ 当社ウェブサイトでの非財務情報を発信継続

※新中期経営計画PROGRESS2030の検討を開始、2027年2月発表の予定

Ⅲ. 2026年12月期の経営戦略

中期経営計画 PROGRESS 2026の基本コンセプト

エネルギー新時代に即した「グローバルな総合配線システムメーカー」の実現に向けて、成長戦略／生産戦略／経営基盤強化と資本コストを意識した経営を着実に実行し、100年企業の実現に向け、事業構造の変革を図る

1. 成長戦略

- ① 部門ごとに重点成長戦略を推進
- ② 脱炭素社会の実現に貢献する取り組みの更なる強化

2. 生産戦略

- ① 国内生産拠点の強化とグローバル生産拠点戦略の実践
- ② 「グローバル同一品質」で品質を売りにできる会社を構築

3. 経営基盤強化

- ① グローバルでの情報基盤構築と社内DX推進
- ② グローバル人材の育成

4. 資本コストを意識した経営

- ① 事業成長と収益性向上
- ② 株主還元の強化
- ③ IR活動の充実

IV. 2026年12月期の業績予想

1. 連結損益予想			(単位：百万円)
	2026年12月期 第2四半期 (中間期) 実績	2026年12月期 (予想)	
売上高	24,103	47,000	
営業利益	1,102	2,700	
経常利益	1,104	2,700	
親会社株主に帰属する当期純利益	653	1,900	

2. 配当金の状況			
	第2四半期末	期末	合計
2025年12月期	20円	21円	41円
2026年12月期	35円		
2026年12月期 (予想)		35円	70円

会社概要

会社名	オーナンバ株式会社
所在地	〒541-0058 大阪市中央区南久宝寺町四丁目1番2号御堂筋ダイビル19階
創業	1941年9月
資本金	23億23百万円
従業員数	グループ約4,000名
株式	東京証券取引所 スタンダード



15

拠点紹介

国内外に拠点をもち、グローバル市場で競争力を発揮しています。

国内拠点

営業拠点7カ所

生産拠点6カ所

本社（大阪）

(株) ブライトン
インテリジェントソーラーシステム (株)
寺田工場

鳥取営業所・工場

山陰工場

西日本営業部

横田工場

東日本営業部
アスレ電器 (株)
ユニオンマシナリ (株)

名古屋営業所

三重工場

海外拠点

営業拠点7カ所

生産拠点8カ所

OSCA
(アメリカ/カリフォルニア)

CRO (チェコ)

KSO (中国/昆山)
HASL (中国/杭州)
STO (中国/上海)
UMAC (中国/惠州)
UMA (中国/香港)

THO (タイ/バンコク)
UMT (タイ/シーラーチャー)

VTO (ベトナム/ホーチミン)

ARCOSA
(メキシコ/ティファナ)
Bajio分工場
(メキシコ/パヒオ)

INO
(インドネシア/ジャワ)

16

電線製造～ハーネス加工、新エネルギーまで幅広く手掛ける「総合配線システムメーカー」

ワイヤーハーネス		電線	
取扱製品 - 車載用ハーネス - 民生用ハーネス - 産業機器用 - OA機器用等		取扱製品 - 機器用電線（国内・海外） - 給電ケーブル - 太陽光用電線 - 計装用電線（国内・海外） - 通信ケーブル	
導入先 <家電機器> <自動車> <産業機械>		導入先 <半導体製造装置> <医療機器> <EV充電器（盤内配線）> <受電設備>	
ハーネス加工用機械・部品		新エネルギー	
取扱製品 - アプリケーター - インサート成型 - 端子 - 自動加工用機械 - コネクタ		取扱製品 - ジャンクションボックス - 片端・両端延長ケーブル - システムソリューション	
導入先 <ハーネス加工用機械> <自動車>		導入先 <太陽光発電設備> <電力会社・蓄電所>	

本資料の将来予想に関する記述は、経済情勢や社会情勢の変化により、実際の業績と異なる場合があることをご承知おき下さい。